

2020 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 佳作

幸せって何だろう？
～持続可能な社会を実現するために～
(原文)

高本 明子 (12 歳)

東京都

東京学芸大学附属世田谷中学校

こんにちは、中学 1 年生の明子。元気かな？ 私は 22 歳の高本明子、もうすぐ 23 歳になるよ。今から 10 年前だと、新型コロナウイルスが世界中で広まって猛威を振っていた時だね。ちょうど中学校に入学するところだったのに、自粛期間が続いてなかなか学校に行けなかったからとても残念だったのを覚えているよ。でも、大丈夫。もうコロナウイルスに対するワクチンが開発されて、今ではそこまで脅威となる病気ではなくなったの。10 年前でいう、インフルエンザのような普通の病気となったんだよ。

ところで今の私は、医学部の 5 年生で医師を目指しているよ。「医師となって国連で働き、世界中で戦争や紛争に苦しむ難民、きれいな水が十分に取れなくて感染症のために亡くなる人たちを助けたい」。そう思っていたから医師を目指していたよね。当時のあなたは、そういう人達はまだまだしばらく減らないのではないかと思っていたね。でもこの 10 年間で、そういう人達は少しずつ減ってきたんだ。他にも、多くの人が綺麗な水を飲めるようになったり、多くの人が質の高い教育を受けられるようになったりしているの。こうなったのは、この 10 年間で SDGs が世界中で注目を集めたことに理由があるんだ。コロナウイルスが終息した後、人々の関心がようやく環境問題や世界中の不平等、貧困問題など世界に横たわる諸問題を解決することに集まったからなんだよ。特に、このままだと世界が危機的状況に陥ってしまうという危機意識を持った人達から、SNS などで自分たちができる取り組みが発信され、広まっていき、この 10 年間で驚くほど深く世界の人々に浸透していったんだ。例えば、SNS で、ゴミを出さない商品を作る取り組みをしている企業に「いいね」を押して支持すると、ゴミを多く出さないで済む製品が世界中に増えて、消費者である私たちと生産者である企業の両方向から意識が変わり、環境問題の急速な改善につながっていったんだ。

他にも例えば、途上国の生産者に公正な賃金や労働条件を保証した価格で商品を購入する「フェアトレード」は、2020 年の時点でもそれなりに浸透していたと思うけれど、2030 年の今は「フェアトレード」とわざわざ全面に押し出さなくても、すべての商品がそのようなシステムで取引されるようになっていて、それによって 10 年前はまだ発展途上国と呼ばれていた国の多くも今ではとても豊かになっているんだ。これからますますそんな風に豊かになっていく国が多くなると思うし、かつ

て不可能だと思っていたことが可能になり、更には当たり前になっていくものも増えていくと思うんだ。こういう風に、世界はこの10年でいい方向に、大きく変わっていったんだよ。

でも、一番変わったのは世界中のみんなの、幸せへの考え方もかもしれない。ものやお金の多寡や社会的地位が必ずしも幸せに直結するとは限らなくて、周りの環境や、愛情、自由、健康などが人生を豊かにし、幸せに直結するという事に人々が気付いてきたのだと思うよ。それは、コロナウイルスで世界中が苦しめられた時に、普通に生活できる事の幸せに気が付き、学んだからだと思うよ。こういう所から、幸せな世界を作っていけるんだね。

これからの未来をあなたたちが変えていくには、一人一人の日々の積み重ねが大事。ちょっとした事でも、環境問題や貧困問題の改善につながるし、あなたの今の行い次第で、明るい未来にする事もできるけれど、暗い未来になってしまうこともある。些細な事でも何か改善できることがあるから、見逃さないようにしてほしいの。その思いをずっと大事にして本当の「幸せ」な社会を作って欲しいし、それを持続させることが重要だと思う。

これが2030年の私から2020年の明子に伝えたいメッセージだよ。